第270回一関市教育委員会定例会　会議録

１　開催日時

開会　令和６年11月27日（水）午後１時30分

閉会　令和６年11月27日（水）午後３時15分

２　会議の場所

一関市役所花泉支所東大会議室

３　出席者

教育長　時　枝　直　樹

委　員　伊　藤　一　志

委　員　佐　藤　一　伯

委　員　桂　島　加奈子

委　員　大　浪　友　子

４　会議に出席した関係者及び職員

教育次長兼教育総務課長	千　葉　せつ子
一関図書館長	藤　倉　忠　光
副参事兼学校教育課長	八　木　浩　司
一関市博物館次長	佐々木　修　路
いきがいづくり課長	伊　藤　信　子
教育総務課長補佐兼庶務係長	宮　野　真知子（記録）

５　報告

⑴　行事報告及び行事予定について

６　その他

⑴　学校給食のアンケート結果の概要について

⑵　令和６年度学校教育行政の重点について（ＩＣＴの活用）

⑶　その他

７　会議の議事

○教育長　ただいまから第270回一関市教育委員会の定例会を始めます。よろしくお願いいたします。

報告(1)　行事報告及び行事予定について

○教育長　２番の報告に入ります。行事報告及び行事予定について、初めに私の方から行事報告をお話しさせていただきます。

資料№.１をご覧いただきたいと思います。前回は、第 30 週の 10 月 23 日に教育委員会定例会をやりましたので、それ以降の部分についてお話しさせていただきます。

10 月 24 日、岩手県市町村教育委員会協議会教育長部会が、陸前高田市キャピタルホテル 1000 で開催されました。令和７年度の事業計画や協議会負担金の報告がありました。情報交換では、全県的な課題となっている、学校統合に関する取り組みについて、部活動の地域移行について、学校給食費について、岩手県クラウド版統合型校務支援システムについて、が取り上げられ、取り組み状況や課題へどのような対応が必要かの協議がなされました。２日目の 25 日は岩手県指定有形文化財旧吉田家住宅母屋の視察、陸前高田市立博物館の視察に参加しました。

同日、和歌山県の田辺市、新宮市との交流会がベリーノホテル一関で開催され出席しました。室根神社の歴史的な由縁により、一関市と田辺市は姉妹都市の提携をしております。また新宮市とは友好都市の提携が結ばれており、室根大祭の日程に合わせてお越しいただいたものです。また、この日は和歌山県新宮市との災害時相互応援に関する協定及び和歌山県田辺市新宮市とのふるさと納税による災害支援金の代理受領に関する覚書の締結も行われたところです。

26 日、室根大祭交流会が千厩町マリアージュで開催されました。室根大祭の関係者、一関市の関係者、和歌山県田辺市、新宮市の関係者、友好都市の気仙沼市と埼玉県吉川市の関係者が集い室根大祭の成功を祈願しながら交流を深めたところです。

27 日、室根大祭のマツリバ行事を観覧しました。本宮神輿と新宮神輿のお仮宮への安着を争う、神輿先着争い等、祭りのクライマックスを見ることができました。小学生、中学生の子供たちの参加も多数ありましたので地域伝統を大切にする姿も見ることができて良かったなと思っております。

29 日、佐藤一伯委員が新たな任期の教育委員会の委員として任命された。辞令交付式に侍立いたしました。佐藤委員さん今後４年間引き続きよろしくお願いいたします。

同日、ことばを育む親の会一関支部の支部長の訪問があり、きこえとことばの教室、ＬＤ等通級指導教室に係る要望を承りました。

同日、一関地方校長会による財政要望の訪問がありました。要望内容は主に校舎内外の施設設備の環境を整える事項でした。今後内容を吟味して対応して参りたいと思っております。

30 日、第２回の管内教育長会議がありました。これは県南教育事務所管内の４市町の

教育長会議で、定期人事異動に向けてその事務の確認が主の会議でした。終了後、管内校長会議の開会行事にも対応してまいりました。

31 日、一関文化センター大ホールにおいてＮＨＫの「新・ＢＳ日本のうた」の番組収録が行われ、私も観覧してきました。この収録は一関文化センターが開館してから 40 周年の記念事業として行われたものです。収録の中でＮＨＫが作成した一関市の紹介動画で猊鼻渓も取り上げられ、一関らしい番組となったと思いました。

11 月１日、岩手県国語教育研究協議会一関・平泉大会が平泉小学校、平泉中学校で開催され出席しました。

２日、ほんでら秋祭り 2024 に出向きました。このイベントは教育委員会が主催で、本寺地区の地域づくり協議会、骨寺村ガイダンス運営協議会等が共催の骨寺村荘園収穫祭です。当日の天候はあいにく雨でしたが 300 名以上の来場者がありました。厳美中学校の生徒が「ふるさと隊」として運営に地域活動として参加して、地域を挙げての行事となっていることを感じて帰って参りました。

３日、市勢功労者表彰式がありました。伊藤委員さんにも出席していただきました。

４人の方々が受賞されたところです。

７日、一関地方児童生徒音楽発表会が行われ鑑賞してきました。これは、11 月６日、７日と２日間開催されて、午前中は２日とも小学校、午後は２日とも中学校が発表する音楽発表会です。私は２日目の午前中、小学校 11 校の発表を鑑賞してきましたが、表情を豊かに一生懸命合唱、合奏をする子ども達、それをしっかりと他校の児童が見ていて素晴らしい交流になったなと思ったところです。また保護者の入場は昨年度は各家庭１名と制限しておりましたが、今年度は制限なしで多数の方に鑑賞していただきました。

８日、岩手県道徳教育研究大会一関大会が萩荘小学校、萩荘中学校を会場に行われました。東北地区中学校道徳研究大会も兼ねて開催されましたので、県内外から参会者がいらっしゃいました。萩荘小学校では、児童が自分の言葉で道徳的価値について語れるようになることを目指し、パッケージ型ユニットの手法を用いた実践が、萩荘中学校では、生徒が主体的に対話するための思考の可視化を重視した実践が公開されました。両校ともに児童生徒相互、教師との関係がよく、学級経営の基盤のもと相手の気持ちを大切にしながら自分の考えを話す姿を見ることができました。

同日、岩手県道徳教育研究大会・東北地区中学校道徳研究大会の慰労会が行われ、私も出席して参りました。

９日、一関市納税表彰式及び児童生徒納税作品表彰式がありました。習字、作文の部等の表彰でした。教育長表彰、教育長が会長を務めている両磐地区租税教育推進協議会長表彰もありましたので、私が出席して賞状をお渡ししてきたところです。

同日、一関西地区退職校長会の慶祝会行われ、祝辞を述べて参りました。

10 日、一関市ＰＴＡ連合会教育講演会に出席してきました。講師は宮本延春さんで演題は「育てよう、子どもの肯定感」の講演が行われました。著書もあります。愛知県に生まれ、血縁関係のない家庭で育ち小学校低学年からいじめにあい学校嫌いから勉強嫌いにつながり、中学校ではオール１となり卒業時には漢字は自分の名前のみ、九九は２の段まで、英語はｂｏｏｋのみで進学せずに大工として働き始めたということです。そして 18 歳で育ての両親とも死別し天涯孤独になりましたが、23 歳でテレビ番組を見て物理学に興味を持ち、夜間の定時制高校に進学し、その後名古屋大学に合格し母校の教師となった方です。

マズローの欲求５段階の構造、１段階の生理的欲求から５段階の自己実現欲求までを自分の人生からの具体的な話で非常に感銘を受けましたので、当日参加した保護者や教員にとって、とても良い講演会なったのではないかなと思っております。

12 日、第３回就学支援委員会を開催しました。今回は次年度小学校１学年就学する就学児についての就学意見の決定の委員会でした。

13 日、岩手県学校教育ＤＸ・学力育成協議会、それから県教委と市町村教育委員会の意見交換会がありました。現在のさまざまな懸案事項について、他の市町村、そして、岩手県との情報交換をしてきたところです。前半の岩手県学校教育ＤＸ・学力育成協議会では、一関市の校務支援システムの導入についての留意事項等についての事例発表をＩＣＴ指導員と一緒に行いました。

14 日、市の校長会議が川崎市民センターで行われました。私の方から定期人事異動に合わせて人材育成をどのように進めるかというお話をさせていただきました。

15 日、一関地区法人会青年部会による、市内小学校６年生に租税教育用下敷きが寄贈されましたので受贈式を行いました。国税庁主催の「税を考える週間」の一環として行われたもので、今回 15 回目となりました。

同日、 第２回の社会教育委員会議が東山市民センターで開かれました。今年度の上半期の社会教育関係事業の実施状況と令和７年度の共通取組みについてですが、今年度のテーマである「男女共同参画」を継続することについて協議され、継続するということで決定いたしました。会議終了後、石と賢治のミュージアムの施設見学も行われました。

16 日、秋季の土水路整備が本寺地区でありました。各課長、博物館次長にも参加していただいたところです。この企画は骨寺荘園室、文化財課が中心になって進めているところです。

19 日、市学校保健会教育講演会が一関文化センターで行われました。静岡産業大学スポーツ科学部特別教授の小澤治夫先生を講師に、「子どもを一人前に育てる大人の責

任」という演題の講演でした。子供たちの健全育成には、家庭での生活が基盤であること、家庭生活では睡眠時間を確保すること、朝食をとること、運動を通して体力をつけること、そのことによって学校生活の学力向上に大きく関わることを、ご自身の教職経験から説得力のあるお話をいただけたと思っております。

同日、学童野球の一関選抜クラブの小学生が 12 月に岡山県倉敷市で開催される、西日本選抜学童軟式野球大会、全国規模の大会に出場することの表敬訪問で、市役所本庁を訪れ挨拶を受けました。10 月に二戸市で行われた東北選抜クラブ学童野球選手権大会で準優勝し出場権を得ました。市内９スポーツ少年団、14 校の小学校からなるチームです。

20 日、滝沢小学校の公開研究会が開かれました。学びをつなげるための発問の工夫を通して、主体的に学び、ともに高め合う児童の育成をというテーマで授業が公開されました。学級の人間関係、教師と児童の関係がよく、板書も構造的でＩＣＴの活用も図られた授業、研究公開だったと思っております。委員の皆さんにも出席をいただきました。

21 日、一関中学校の公開研究会がありました。ＩＣＴの効果的な活用場面を設定することにより、「主体的に学び続ける生徒の育成」というテーマで授業が公開されました。公開授業は６教科でされ、それぞれでＩＣＴの活用がなされていたので、参会者にとって提案性のある研究会となったと思います。教科経営の良さも感じました。この日も委員の皆さんにも出席をいただきました。

22 日、市ＰＴＡ連合会役員会と懇談を行いました。単位ＰＴＡからの要望事項や、全体に関わる教育予算、地域部活動、学級経営の安定化等が話題として出されました。

事報告については以上となりますが、何かご質問はありますでしょうか。

伊藤委員。

○伊藤委員　10 月 24 日の岩手県教育会協議会教育長部会研修会の中身ですが、全国で大きな話題になっているのが、不登校、教員の過重負担ですけれども、文部科学省は過重負担、時間外勤務の事についてはお金で解決のようなことが出ていて、現場ではそうではなくて教員の定員を増やさないと、なかなか過重負担を解消にはならないのではないかと、そういうことは話題にはならなかったのでしょうか。

○教育長　この岩手県市町村教育委員会協議会の中では、あくまでも各市町村単位の取り組みになるので、教職調整額とかについては、全国都市教育長協議会や、あるいは東北都市教育長協議会等の規模のところで文部科学省の方から直接説明があり、それを受けて対応するということになっておりますので、10 月 24 日に開かれた県の協議会の中ではその部分は大きなテーマとはなりませんでした。前に受けた説明の中では、教職員の改善については２つの面があって、１つは処遇改善で、今議論されているのは教職調整額をどのようにするかということが１点と、業務改善で教職員の働き方改革をどのようにしていくか

っていうことで、その２つをセットにして考えていくというところなので、そのどちらかに偏らないようにしていくということで進めておりますので、その面については、これまでの校長会議でも、それがセットになっているということを校長自身にも理解していただいているところですし、そのような議論になっているということを、機会があれば各学校で教職員に伝えてほしいということを話しております。

ほかにございますか。よろしいでしょうか。

では、以上で行事報告については終了いたします。では、行事予定についてお願いします。

教育次長。

○教育次長　（説明）

○教育長　来月の教育委員会議ですが、12 月 24 日の火曜日でよろしいでしょうか。

よろしくお願いします。

総合教育会議 12 月 18 日についてもご対応よろしくお願いしたいと思います。 行事予定についてはよろしいでしょうか。

その他⑴　学校給食のアンケート結果の概要について

○教育長　次に３のその他に入ります。⑴学校給食アンケート結果の概要について、事務局からお願いします。

学校教育課長。

○学校教育課長　（説明）

○教育長　前回の教育委員会定例会で、アンケートの実施については一度ご説明させていただいたところです。学校給食について理解していただくということと、高騰する食材費の対応についてアンケート等を加味しながら、検討していくことについて今説明があったわけですが、これにつきまして何かございましたらお願いします。

佐藤委員。

○佐藤委員　質問５の不満に感じている点の３位が量とありますが、これは多いことへなのか、少ないことへなのかはわからないと思いますが、全般的にこの不満というのはどのように捉えていらっしゃるかを教えていただければと思います。

○教育長　学校教育課長。

○学校教育課長　量的なもので、そのお子さんの体格やその嗜好によってのものもあるかと思いますが、具体的な記述はいただいていないのではっきりしたことは言えませんけれども、残食も少ないという状況を踏まえますと、量的にもっと食べたいという声が一定数あるのかなと捉えております。

○教育長　よろしいでしょうか。ほかにございますか。

桂島委員。

○桂島委員　先程の佐藤委員のこの量の問題なのですけれども、今は必ずこのくらい食べて、残ってまで食べたさせたりはしないということで、残ったら食べたい希望者に分けるというのをしているようなので、その点から踏まえて、やっぱり量が足りない方なのかなと思います。多いという子は自分で少なくできるわけだから、それで量に不満があるというのではなく、食べたい子たちがもっと食べたがっているのかなと思います。特に男子が欲しいという手を挙げてもらうみたいです。私の息子も隣の女子から毎日のようにご飯を半分分けてもらっていたと聞いて知りました。今は前みたいに必ずこうというのはないので、そこは自由度が増してきたのかなと思うのですが、その量が足りないという不満というと、給食費が上がってきて、どこで量を増やしていくのかと。そうするとやっぱり給食費を上げるしかなくなるのか、かさ増しで安い素材を使って、とにかくお腹をいっぱいにさせるのかというようにしていくしかなくなってくるのかなという感じがします。減らして質を上げてというのはいいのでしょうけれど、コントロールはできるかもしれませんけれど、どうやっても足りないとなると難しくなってくるかもしれないです。それを満たそうとするのはと思っていて、そしたら家からおにぎり１個持ってくるとか、難しい問題だなと思いました。

○教育長　学校教育課長。

○学校教育課長　標準的なカロリーとか栄養バランスっていうのが給食法の中では位置づいておりますので、体格ではなくこのぐらいの発達段階にある子はこのぐらいというのを計算して、それで作っています。その子によっては足りないという説明を今いただいたところも納得いく部分もあります。いずれにせよ、その栄養価というものは、これからもこだわった形で優先的に、そして美味しいという部分は大事にしていきたいところです。もっと食べたいと言ってくれる子どもたちにそういう声があるのであれば、それは逆にすごくありがたいなと思っております。

○教育長　教育次長。

○教育次長　このアンケートに関しては、物価高騰ということもありますし、保護者が何を学校教育に求めているかということを把握するという大きな目的があったわけですけれども、こういったアンケートなど通じながら、今後学校給食をどうやっていくかということを今検討しているところです。

ちょっと紹介ということですけれども、12 月号の広報に、給食を特集しております。限られた紙面なのでボリュームはたくさんではないのですが、実際どうしても世の中のニュースで、給食費の無償化のところだけがクローズアップされていますけれども、給食セ

ンターも含め教育委員会の方で、学校給食にどういう願いで、どういう形で取り組んでいるかというのを、対保護者と児童生徒だけではなく、市民の方にも理解していただきたいということで、今回の特集では、学校給食の現場とか、どういう思いで作っているのか、そういったところも重点的に広報させていただいておりましたので、ぜひ目を通していただきながら、ほかの方から学校給食のお話があった時には、 給食費無償化ということだけではなく、今の一関市の学校給食の取り組みのちょっとした紹介にはなりますけれども、そういったところに目を通していただきながら、理解をしていただければなと思いますので、ぜひそういったところを紹介していただければと思います。

○教育長　よろしいでしょうか。ほかにございますか。

伊藤委員。

○伊藤委員　この前の定例会でもお聞きしましたが、例えば質問３では９割近い満足感を子どもたちは持っているということは、残菜量は少なくなってきているのでしょうか。

○教育長　学校教育課長。

○学校教育課長　残菜量は減っています。残食が令和５年 10 月から 12 月の連続する２日間を基本に調査をしました。残食率が小学校は 6.3%、１人平均のグラム数にして 44.7 グラム、中学校が 5.1%、小学校に対して１%程度下がります。残食量としては 44.0 グラムということです。全国はどうなのかということですけれども、１人の平均残食率は 6.93%ということで、一関市の方が１%ぐらい低い状態になっています。

廃棄している量で見ますと、全国は年間で１人当たり 7.1 キログラムに対して、一関は廃棄分で見た時には 3.7 キログラムということになっています。ただし、汁気も多いので、汁気も入れると 7.5 キログラムぐらいということで、全国と同等、もしくはそれよりまず量としては廃棄分については少ないであろうという捉え方ができると思います。

○教育長　大浪委員。

○大浪委員　今の廃棄の話ですが、廃棄されたものというのはそのまま可燃物となりますか。それともどこかの飼料になったりというような連携というのはされているのかをお聞きしたいと思います。

○教育長　学校教育課長。

○学校教育課長　過去はそういう飼料のにも使っている、旧自治体の中ではあったようですが、今は全て廃棄処分という形になっています。

○教育長　よろしいでしょうか。ほかにございますか。

この学校給食のアンケート結果についてはよろしいでしょうか。⑴は終了いたします。

その他⑵　令和６年度学校教育行政の重点について（ＩＣＴの活用）

○教育長　⑵令和６年度学校教育行政の重点について、ＩＣＴの活用について事務局からお願いします。

学校教育課長。

○学校教育課長　（説明）

○教育長　ＩＣＴの活用について、最近参加いただいております総合訪問や学校公開でも見ていただいているところですが、これについて何かございますでしょうか。

伊藤委員。

○伊藤委員　アナログ教育からデジタル教育の昨今、ＩＣＴの活用とはかなりのメリット、教育に効果もあると思います。この間、本当に一関中学校の授業が素晴らしいなと感じました。皆さんよく機械を操って、きちっと対応しているなということですごく驚きました。教育効果もかなり上がっているなと思いました。

ただその反面、人として大事なものとか、あるいは時代にとって負のものを少し感じました。例えば懸念されるのは、会話が少なくなってきてしまう。それは学校でも家庭でもです。こういうものの最たるものが例えば不登校が増えている大きな要因ではないかなと思うようなところもあります。それ以外にもう１つ言えば、一生懸命やっているのですが、言葉に表現できない、書いていることに共感できないそういう感じを受けました。そのあたりはいかがでしょうか。

○教育長　学校教育課長。

○学校教育課長　負のものと確実に裏付けられるようなものはありませんけれども、調べて漢字など使って文章を書くとか、そういうのはもう今ＡＩなどでもできるようにはなっているのですが、自分の中で自分が知識として身につけている漢字などの表記方法を使って、実際に文章を書いたりということはとても大切なことだと思いますので、全てにおいて入力にするのではなく、授業のこの場面で使う、この場面でこういう資料を提示すると効果的だといった中身で研究してくれたのが一関中学校であり、そうした実践でした。体育の時間も、できるかできないかという実技教科体育において、自分のラケットの振り方を客観的に映像で自分を見ることができて、それで体の使い方を修正したりとか、そういう便利さで使えるものについての導入などを考えてくださいました。

一方で教育研究所でも今年度もＩＣＴ部会というのを設けておりまして、どういう場面で使うのが効果的で、実際に書かせる活動、ノートにまとめる活動、自分の中で情報を組み直して、それをどのように表現するかと考えることも大切な勉強だと思いますので、これまでのノートを使った、自分の手でペンを走らせるという活動も重視して使い分け、こういう時にはこっちの方が効果がありますというものも、先生方から生の授業をとおしたものとして吸い上げる。そうした研究は並行しながら進めているところでした。

○教育長　こちらについて私からもですけど、ＩＣＴとかそのデジタル化というのは当然着目されるのですが、アナログというのも大切だということで、今、 国も県も市教委も、デジタルとアナログをどのように組み合わせていくかということが１つ課題です。

特に、伊藤委員から出されました会話という、交流するという部分が非常に大切なので、これは対面でやらなければできませんので、先日の学校公開でも机を班体制にして意見交換を行っていました。それはロイロノート等で集約したから交流したとはなりませんので、その場面を生み出すために今までプリントとかを集めていたのをロイロノートでぱっと出せるよう、その生み出した時間を会話の時間に使う。そういうバランスを保っていくことがご指摘のとおり大切だと思いますので、その点はまた授業改善に活かしていきたいと思っております。

ほかにございますか。

佐藤委員。

○佐藤委員　総合訪問ですとか、学校公開を今年度何箇所か回らせていただきまして、前年度と大きく違うなと思ったのは、この電子黒板が令和５年度に導入されて私どもがその実態を見学させていただいたのは今年度からでしたが、まず大きくモニターのサイズがありましたし、それからそのモニターがかつてはタッチしても全く動かないモニターだったのが、そこに文字が書けたり、それから子どもがそこに端末を繋いで説明をしたり、本当に電子黒板と言われるものの良さというのは、実際に拝見していいところがいっぱいあったと思いました。１人１台タブレットの効果が、より大きな電子黒板が各教室に普及したことによって、広まったように思いました。

それから先ほどから、負のものとして伊藤委員からもお話があった、会話、あるいは対話も少なくなったり、それから、アナログ面の懸念というのは確かにあるかと思うのですが、やはりこの、例えば先日の一関中ですと、英語でネイティブの方との会話をとおして、一関や平泉の良さを友達に伝え、どういう美味しいものがあるかを伝えている、そういう会話を確かみんなで作るという授業だったと思うんですけれど、先生が言っていたのは、いい表情にしたりあるいは、この美味しいものを紹介するのに、美味しそうに表現しなきゃとか、そういう注意点というのを確認していました。タブレットだったりあるいは電子黒板を、そういったアナログなことの授業の中でも、うまく使っていくということです。写真を見せたり、プラスそこで会話をするという、両方のことをすることによって、いい授業になります。かつてですと、視聴覚教育、私も教育実習の教職課程を取らせていただいたときに、社会科でしたのでＯＨＰの作成とか、それだけでも１枚の地図を作るのに大変な時間がかかるものが、あの目的はより良い教育というか視聴覚に訴える教育が目的だったので、その面に関しては、最初に伊藤委員がおっしゃったように充実してきています

ので、教育長からご説明があったように、これからはそのデジタルの良さ、アナログの交流を増やしていく、その環境というのは本当に今年度、充実したのではないかと思いました。

○教育長　ありがとうございました。

学校教育課長。

○学校教育課長　電子黒板にはもう１つ機能があって、下にカメラがついていて、ＱＲコードを読み込んだり、実物投影機能もついているというのもあって、 様々な使い方ができます。本当にお披露目したところに触れていただいてありがとうございます。

○教育長　ご指摘いただいた、目的をしっかり持って、子どもたちにどんな力をつけたいのかということを、再度大切なところを確認させていただきまして、ありがとうございます。

ほかにございますか。

大浪委員。

○大浪委員　働き方改革に使用されているとありますが、効率化に関しては、やはりこれは絶対外せないところだと思いますので、先ほど課題もあるというお話でしたが、苦手という先生もいらっしゃるのかもしれませんが、そういう部分を支援していただいて、ぜひ皆さんが使えるようになって、効率的になったらいいなということをすごく思いました。

滝沢小学校に行った時ですが、算数の授業で台形の面積を求めるかなにかの時だったのですが、男の子が、先生が説明をしているのですけれども、全く聞かずに、その台形を自分なりにいろんな形に切り取って、こっちに回したりとか、こっちに貼り付けたりとか、その切り方もいろいろ切ってみたりとかして、式勝手に図形を楽しんでいたのですが、すごく楽しそうでした。授業を聞いていないというのはどうなのかなとは思ったのですけれども、そういう自分の興味を、目の前で切ったり貼ったりして興味を持っていけるというのがタブレットのすごく面白いところなので、やはり使い方。自分が疑問に思ったこと、こうしたらどうなるのだろうということを、その場ですぐ実践できて答えが出るというのは、こういうもののいいところだと感じました。

滝川小学校では、すごく保護者のボランティアの方がたくさんいらっしゃって、地域でとても滝沢小学校というものを大事にしているということもすごく実感いたしました。その中で、知り合いのお母さんにお会いしたので、滝沢小学校についでどうですかということを聞きましたら、上の子の時はもちろんこういうものがなく、下の子の時にはこうなっていった。いいなと思うのは、漢字を書いているとき、ひらがなを書いているときに、書き順が違うと違うよと言ってくれる。それは自分にとってなかなか分かりづらいことをすぐ違うよと言ってくれて訂正できるので、いいなと思う。計算をしていても、すぐ違う

と言ってくれるので、違うんだということで直せるのでいいなと思う。ちょっと嫌だなと思うところは、宿題をやっているのか、やっていないのかというところ。そのお子さんが小学校２年生だったのですけれども、宿題をやったのと聞いても、やったようなやらないようなという感じで、親の目にあまりやった成果が見えないというのが、夏休みのドリルみたいなものでも見えづらい。今までだったら、やったものは紙として、やった成果として物であったものが見えづらいというのが、その１人の保護者の方の意見だったのですが、学年によって、ものによって、使い分けというのはすごく大事なことなのかなというのは思ったのと、今回高校生の生徒さんがたくさんいらっしゃっていたので、高校ではどういう授業をされているのかということ聞きましたら、高校は電子黒板も使っているけれども、タブレットは一切使っていないという話をされていたので、せっかく小中学校でＩＣＴを活用して授業を進めていく中で、高校になるとタブレットがなくなってしまってそれに触れ合う機会がなくなり、それまで積み上げてきたものが途切れる感じがして、残念だなということを思いました。

○教育長　ありがとうございます。

効率的な部分というのはお話いただきましたように、算数の面積で台形は等積変形して長方形とか三角形に変換するのですが、タブレットがない時には、熱心な先生は方眼用紙で作って、それを子どもたちに切らせて、使い捨てになって終わったら終わりになっていたのですけれども、タブレットの場合は作る手間もないですし、何回失敗しても試行錯誤できるので、子どもたちも失敗を気にせずに自由に切ってやれるというところがいいと思います。そして今、タブレットについては、今までは情報モラルの問題があったのでそこで躊躇していたところがあったのですが、今後は家庭に持ち帰らせて、中に入っているソフト等で家庭学習にも使うということを進めていく方向なので、タブレットを使ってやっている内容が、学習なのか遊びなのかというのは結構大きいところがありますので、その部分の家庭との連携というのは、今後学校教育の中で大きい課題になってきますので、ありがとうございました。

それから高等学校は、多分ですがスマートフォンとか個人用のパソコンを準備して、それを用いているので小中学校のように１人１台タブレットは配布されていないと思うのですが、それに代わるものを個人で準備して、それを活用しているということなので、ＩＣＴの活用という点では共通しているのかなと思っています。ちょっとここは確認しておきます。

桂島委員。

○桂島委員　一関一高はスマートフォンとか入学の時にこういう仕様のパソコンを用意してください。用意できないのであれば、タブレットかスマートフォンでという話でやって

います。課題提出とかもＴｅａｍｓを使ってやっています。

○教育長　大浪委員。

○大浪委員　学校によって違うという感じですか。

○教育長　これは岩手県教育委員会が全県でやっているので、学校によってその指示の仕方が変わっていると思うのですが、自分の機器は準備してそれを活用するという点では共通だと思います。

よろしいでしょう。ほかにＩＣＴの活用についてございますか。

桂島委員。

○桂島委員　今日のお話で学校によって違うのですが、その聞いたお子さんのタブレットが小学校、中学校みたいに用意しているかという質問については、違うとなったかもしれないのですけれども、パソコンルームでやったりとかというのもあるので、違う授業ではタブレット使ったりとか、スマートフォンを使ってというのもある可能性はあるのかなと思います。１人１台タブレットを配布されているかというのに関しては、違うとなったかもしれないというのを感じましたし、高校の場合だとＴｅａｍｓで課題提出というのがあるのですが、誰が出してないかとか、何番目に出したかというのがわかるので、そろそろみんな出しているから自分も出さないと、と言って出したりとか、出した課題も見ることができるんです。ほかの生徒のものを見られたりするので、時代だなと思って見ていました。板書の保存も資料の一番右側の支援が必要な子どもが主語のというそこに書いてあるのですが、板書の保存というのも、 高校でもぜひそういうのにまで繋げてくれたら助かるなと思います。先生によっては、いろいろなところに書いて、生徒がそれをノートに書いている途中で全部消されてしまうこともあると聞いたりします。使っている教科書が、解き方が書いていなくて答えしか載っていなかったりするので、授業を聞いてその問題の解き方や答えを知りたかったけれど、写している間に消されてしまい、結局帰ってきてから同じ問題をネットで調べたりすると、同じ問題が出てくるんですよね、解き方とか。全国の皆さんが同じような問題を解いているんだなと思いました。すっかり同じ数字で同じ問題が出てくるので、それで調べ直してやったりということもしているので、小学校、中学校でこういう板書の保存ができて、家にいるお子さんとかもできるというのであれば、すごくこれは効果的に使えるのではないのかなと思います。高校でもそういうことができると助かるなと思います。

○教育長　ありがとうございます。高校と交流する場もありますし、幼小中高特高専大の講演会が来週ありますので、高校の先生方もいらっしゃいますので、様々情報交換して参りたいと思います。

そのほかよろしいでしょうか。

令和６年度学校教育行政重点、ＩＣＴの活用については終了いたします。

その他⑶　その他

〇教育長　では、⑶のその他、皆様から何かございますか。ございませんか。

それでは、以上を持ちまして第 270 回一関市教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。